

一般質問発言通告書

議席番号 21 番 氏名 川神 裕司

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 職員のモチベーション向上と活気ある市役所づくりについて

(1) 活気のある市役所づくりのための人材育成について

- ① 最近市民の方から窓口対応は改善していると評価される一方で市役所全体に元気が感じられないという意見が寄せられている。市役所内の活気の低下は市政遂行上不安材料である。様々な理由による職員のモチベーションの低下が原因である場合が多いと指摘されているが、市長の所見を問う。
- ② コロナ禍が働き方やライフスタイルを様変わりさせ、「ニューノーマル」という社会観念を創り上げた。このように時代と共に社会情勢や住民の価値観は大きく変わり行政に対する要望も多岐に渡っている。このような多様性が求められる社会で、職員の専門性を含めた資質を向上させることは不可欠である。それを踏まえ浜田市における「人材育成基本計画」の根幹となる、市長が考える「目指すべき職員像」を問う。

(2) 現在の人事評価システムに対する評価と適正なフィードバックについて

- ① 職員のモチベーションを上げるためのアプローチは色々考えられるが、適正な人事評価が有効と考える。平成28年4月1日地方公務員法改正により人事評価制度の導入が義務化。業績・能力評価を給与や任用の基礎とする制度運用が本格化。そのような中、評価作業の効率化のみならず、職員の能力開発も視野に入れ人事評価システムを導入する自治体が増加している。そこで浜田市における「人事評価システム」の制度設計に関する基本的な考え方を問う。
- ② 現在実施している「人事評価制度」運用の公平性、データが給与や任用に適正に反映されているかが極めて大きな問題となる。そこで職員が現在この制度をどう受け止めているかを含め、この評価システムの総合的検証はどのように行われているのか市長の所見を問う。

2 港湾機能を生かした地域再生について

(1) 福井2号上屋整備等港湾機能の拡充による今後の経済対策について

- ① 浜田港は平成13年開設の浜田釜山航路以来、国際コンテナ貨物のトランシップサービスを実施。航路開設以来ガントリークレーンの供用開始、臨港道路福井4号線完成により浜田港の利用環境は飛躍的に伸びた。そして先日、福井2号上屋が完成したことにより、コンテナ貿易を中心とした物流機能が格段に上昇したと言える。今回の整備は間違いなく今後のポートセールスにおける大きなアドバンテージとなりうると考えるが市長の所見を問う。
- ② 地域で港湾を生かすために県と連携しながら、引き続きバースの延長等港湾機能の強化が求められている。低迷する経済を再生させるため浜田市の強みである港湾を核とした「コンテナ貿易推進」や「物流機能の強化」による攻めの経済対策を強力に進めることが重要と考えるが市長の所見を問う。

(2) 自衛隊艦艇の物資補給基地誘致活動の課題について

- ① 重要港湾浜田港の利用促進やPRの取組として、海上自衛隊艦艇の物資補給基地としての活用を提案すると共に、地元産品の補給物資としての提案が、平成26年9日議会全員協議会において、浜田港を活用した経済効果の視点から概ね了解を得たとされる。具体的には平成27年2月12日を皮切りに浜田市、浜田市議会、浜田商工会議所、石央商工会が一枚岩となり防衛省、地元国会議員に陳情活動を行い今年で8年目となる。この間確実に防衛省は陳情の趣旨、国としての必要性を十分理解され課題も指摘されている。しかしながら、進展しない一番の理由は、出雲川下港、隠岐への誘致要望もあり、県内で補給基地誘致の誘致場所を一本化して県が国に要望していない点にある。ここは久保田市長のリーダーシップにより県内の調整に尽力していただかななくてはならないと考えるがその決意を問う。
- ② 補給基地誘致活動の道程は険しいが実現すると浜田圏域は大きく変わると考える。補給基地誘致活動が始まった理由の一つが経済的視点だが、現在の護衛艦クラスが入港しても相当な経済効果が期待できるとされている。では補給基地誘致が実現すればどの程度の経済効果を想定しているのか所見を問う。

発言No.

8

受付No.

9

令和 4年 11月 22日
8 時 50 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 20 番

氏名 西 田 清 久

答弁を求める者 ☒ 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 財政運営の考え方について

(1) 歳入について

- ① 中国電力三隅火力発電所2号機が11月から稼働し、来年度の税収（自主財源）に与える影響と市長の政策に向けての所見を問う。

(2) 市民生活について

- ① コロナから始まり、ロシア・ウクライナ戦争、円安、輸入問題などで市民生活に直結したあらゆる必需品が高騰しており、市民の経済を圧迫している。元に戻ることは考えにくい中で、市長は市民生活をどう守ろうとされるのか所見を問う。
- ② 低所得者の割合が多い浜田市として、小学校の新一年生に国の交付金を活用して、ランドセルを無料配布する考えについて所見を問う。

2 市が所有する公共施設のあり方について

- ① 浜田市第2期公共施設再配置実施計画が策定されている中、新たに土地の取得や施設を増やす場合、基準となるものがあるのか所見を問う。
- ② 公共施設再配置実施計画では、建物の耐用年数などに応じて実施期間を設けているが、休眠状態の施設は積極的に譲渡、払い下げを行って活用した方がよいと思うが、所見を問う。

3 人材不足と移住・定住戦略について

- ① 一次産業、二次産業、サービス産業など担い手不足、後継者不足、職人不足が続く中、空き家バンク等の住居と職業をパックにして浜田市の新商品として売り出すことを考えてはどうか所見を問う。

発言No.

9

受付No.

19

令和 4 年 11 月 12 日
10 時 32 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 7 番

氏名 村武 まゆみ

答弁を求める者
(○をつける)

市長 (教育長) 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 有機農業の推進について

(1) 有機農業の現状について

国において「みどりの食料戦略システム」で有機農業を推進している。浜田市の有機農業推進については、国が推進する前、令和 2 年度から有機農業を振興作目として取組みをされており、非常に先進的な取組みをされている。また令和 4 年度施政方針にも、特に有機農業の拡大を図るということがあがっている。

① 現在の浜田市においての有機農業を推進するための取組みについて伺う。

(2) オーガニックビレッジ宣言について

① 「オーガニックビレッジ宣言」はいつ実施される予定か伺う。

② 宣言をする目的について伺う。

③ 宣言の内容について伺う。

④ 宣言に向けての進捗状況、今後のスケジュールについて伺う。

(3) オーガニック給食について

先ほどのオーガニックビレッジ宣言の中でも有機農業を推進する中でも食育は重要な視点であるとする。今年の 6 月定例会議において、食育についての質問の際に、オーガニック給食について触れた。

① 未来の浜田市を担う子ども達を大切に育てるという浜田市において、給食への有機米や有機野菜の導入を行うことが必要だと考えるが、所見を伺う。

② オーガニック給食は、全国的にも多くの自治体が既に取り組んでおり、今後も広がる動きがある。先日 10 月 26 日に全国オーガニック給食フォーラムが開催され、現地参加以外で

もオンライン配信があり関係者で視聴することができた。オーガニック給食を推進するためには、教育委員会だけでなく、各関係部局が連携した取り組みが必要で、また、財政支援も必要になってくると考える。組織的に取り組むためには、市としての方向性が大切であると考えているが、市長の所見を伺う。

2. 健康でいきいきと暮らし続けるための取組 について

現在進めている浜田市高齢者福祉計画の基本理念として、「住み慣れたまちで、健康でいきいきと安心して暮らし続ける」とある。

(1) 介護予防事業について

- ① 介護予防事業の中の「通いの場」について現在の状況について伺う。
- ② 浜田地域で実施している「ふくっぴーサロン」について状況を伺う。

(2) 地域共生社会について

現在の社会において、介護、育児、障がい者の方の支援などが縦割りの支援だけでは立ち行かなくなっており、生きづらさを抱えている人が増えている。その中で誰もが支え合う地域を創っていくことが必要になっており、国が地域共生社会を進めている。

- ① 浜田市における地域共生社会についての所見を伺う。
- ② 地域共生社会の中の重層的支援体制整備事業についての所見を伺う。

発言No.

10

受付No.

5

令和4年11月21日

6時 7分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 4 番

氏名 三浦大紀

答弁を求める者

(○をつける)

○市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、カーボンニュートラルの推進について

本市においては、2022年4月にカーボンニュートラル推進室が設置された。

脱炭素社会の実現には、市民意識の向上が必須であり、それを実現させるための事業戦略は欠かせない。

関連事業を推進するにあたっての現状、及び目標達成に向けた取組の方向性について伺う。

(1) 目標達成に向けた戦略と取組について

①本市のカーボンニュートラルに向けた戦略はどのようなものか。

②各部局の取組状況はどのようなものか。

③GXを進める上ではDXとの連動が不可欠。どのような認識でいるか。または取り組んでいるか。

④燃料費等の高騰による地域産業への影響をどのように把握・認識しているか。

⑤今後の各種関連計画の更新において、具体的な行動計画をどのように示すか。

以上

一般質問発言通告書

議席番号 14 番

氏名 布施 賢司

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 ICTを活用した業務最適化の推進について

コロナ禍によってリモートワークが普及し、企業においても業務のペーパーレス化が急速に進んでいますが、その一方、紙文化が根強く残る自治体では、ペーパーレス化はあまり進んでいません。しかし、紙文化の自治体こそペーパーレス化による業務効率化とコスト削減のメリットは大きくなるのではないのでしょうか。政府も現在、「行政のデジタル化の徹底」「政府ネットワーク環境の再構築」「地方公共団体のデジタル化」に取り組む方針を示しています。こうした国の構想が進むと、必然的にペーパーレス化が進み、自治体もそれに対応することが求められます。いまのうちから計画的にペーパーレス化を進めることが重要だと思ひ質問をします。

(1) 執行部側のペーパーレス会議システムの導入について

浜田市議会では、担当委員会での検討や先進地視察を経て、行財政改革実施計画の取組みとして平成30年9月浜田市議会定例会から、議員用・事務局用のタブレット端末30台導入しました。(執行部側は導入していません) 導入の目的は、会議システム(Sidebooks)を活用した資料のペーパーレス化(電子化)、経費削減(作成にかかる人件費、消耗品代等)、議員の情報収集機能の強化でした。今では議会運営の効率化や資料データの管理をはじめとして、より効果的な活用がされていて、最近では、ウェブ会議Zoomを使用してオンラインによる議員研修会も実施したところです。

- ① 議会側が導入した時期に執行部側への導入は現時点では困難と判断されました。その時の理由を伺います。
- ② 大量の紙が必要とされ、多大な手間とコストがかかる議会資料がありますが、年間デジタル複合機の使用枚数と印刷コストを伺います。
- ③ 執行部側として、ペーパーレス会議システムを導入することで期待できる負担軽減や効果を伺います。

- ④ 執行部側（課長職以上、部長職以上）が5階でのペーパーレス会議システムを導入するとしてどの位のコストがかかるのか伺います。
- ⑤ 効率的に事務を行い生産性の向上を図ることで行政DX（デジタル技術による生活や仕事等の変革）をより一層推進するため、執行部側もペーパーレス会議システムの導入をすべきであると思いますが、市長のご所見を伺います。

2 動き出した浜田郷土資料館建替え整備について

先般、市民を対象にした浜田郷土資料館の見学会が実施されました。その後、議会側にも案内があり私も見学したところです。この目的は老朽化の著しい郷土資料館の状況や狭い展示、保存スペースなどを見ていただき、現状に対する様々な意見や感想をお聞きするためだと報告がありました。

(1) 市民見学会アンケート結果について

- ① 見学者（141人）アンケートで設問された、問3～問6までのアンケート結果によるご所見を伺います。
- ② 見学者の一人が、後日、山陰中央新報の読者の声「こだま」に「どうする 浜田郷土資料館」を投稿されました。内容の一部を紹介しますと、浜田郷土資料館の見学会に参加しました。「見ると聞くとは大違い」とはこのことかというのが第一印象です。文化都市浜田とはほど遠く「浜田の郷土資料館です」と大きな声では言えないと思いました。収納庫に眠る資料が圧倒的多数との説明に驚きでした。収蔵庫は、人の入る隙間がないほど資料が整然と、分かりやすく詰め込まれています。展示室の資料はどれもこれも後世に残すべき責任のある資料だと痛感しました。しかし資料館は古く、床や壁に亀裂が入り雨漏りが生じる状況だそうです。この記事、市長もお読みになったと思いますがご所見を伺います。
- ③ 当初スケジュールでは9月中に見学会での意見をもとに、各地域協議会単位で今後の建て替えに向けての方向性について意見交換会を開催するとありましたが、実施されたのか、また、どのような意見があったのか伺います。
- ④ 建替え整備に向けて、今後のスケジュールを伺います。

発言No. 12

受付No. 12

令和 4 年 11 月 22 日

10 時 30 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 11 番

氏名 小川 稔 宏

答弁を求める者 (○をつける) (市長) (教育長) 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 JR 浜田駅を中心とした若者のまちの創造について

浜田は若者の満足が得られる街とはいいがたい現状にあり、近隣市に取り残されているとの意見もある。駅周辺エリアを若者が望むまちの賑わい創出に向けた戦略が求められる。

(1) 駅周辺のにぎわい創出のための JR 等との連携について

- ①駅を中心とした駅南・駅北の整備に対するビジョンについて伺う。
- ②若者が求める飲食・ファッション系の店舗等の誘致に対する認識を伺う。

2 カーボンニュートラル推進と公共交通の充実について

持続可能な社会を目指すにはマイカー中心から公共交通へのシフトや化石燃料を使わない交通機関・移動手段への移行等、社会構造の転換が必要と思われる。

(1) JR 山陰線の利用促進と活性化に向けた連携について

- ①JR を活用した観光振興の考え方と連携協議の現状を伺う。
- ②便利なダイヤ、駐車場確保等、利用促進に向けた連携協定についての認識を伺う。

(2) 民間路線バスの利用促進策について

- ①高齢者の移動手段も含めた 100 円バス対象路線の拡大について伺う。
- ②馬橋西バス停付近へのトイレ整備の要望に対する認識と課題について伺う

(3) 脱炭素の移動手段導入に伴う購入費補助について

- ①市内事業者の次世代自動車普及促進事業の活用状況と市の支援策について伺う。
- ②電動アシスト自転車購入補助についての考え方を伺う。

3 保育士の配置基準と保育所・小学校の連携について

保育所・幼稚園等で発生した事故はこの 6 年間で 4 倍に急増している。支援・配慮が必要な子どもの増加や多様なニーズに対し「子どもたちにもう一人の保育士」が求められる。

(1) 保育士の配置基準の見直しの必要性について

- ①保育士の現場の声はアンケート調査等を通じきちんと届いているのか伺う。
- ②保育士の配置状況と国配置基準の妥当性及び加配に対する市の支援の状況を伺う。

(2) 保育所・小学校の連携とインクルーシブ教育について

- ①配慮が必要な子ども等の保育所・小学校の連携と幼児教育センターの役割を伺う。
- ②浜田市におけるインクルーシブ教育の現状と課題について伺う。

